

**大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム(SCORE) チーム推進型  
事後評価結果**

|                 |  |
|-----------------|--|
| 課題番号            | STSC19009                                |
| 研究開発課題名:        | 身体の加速度情報を用いた非日常的動作の検知・警告システムの事業化検証       |
| 研究担当者(所属・役職・氏名) | 滋賀医科大学 研究活動統括本部研究戦略推進室<br>部門長・特任教授 松浦 昌宏 |

**1. SCORE での活動目的**

本研究では、災害時の狭隘な避難所等における避難生活で発症する、いわゆるエコノミークラス症候群(深部静脈血栓症、以下 DVT)で苦しむ人あるいは命を落とす人を救うデバイスを開発し、事業化を目指すことを目的とした。当初、身体の微小な加速度情報から発症リスクを判定・警告するデバイスの開発を進め、事業化に向けて仮説検証を行う予定であったが、SCORE の活動を進める中で DVT の危険性が高い人自身には自覚もニーズもなく、病院経営者や医療人に強いニーズが存在することが分かった。従って、事業化初期は医療現場に提供する加速度情報と電気筋刺激装置(EMS)を組合せたシステム開発を進め、事業化検証を進めることとした。

**2. 総合所見**

被災経験者や医療従事者に対しヒアリングを行うことにより、着実に仮説検証活動を実施し、エコノミークラス症候群の見守りについてより強いニーズを持つ医療機関を顧客候補に設定し、事業の実現性を高めた点を評価する。今後もマーケットの分析を詳細に行い、有効なマネタイズ方法について検討を進めること、また医師らと共同研究を実施し、プロトタイプ等によって技術シーズの効果を裏付けるエビデンスを構築することを期待する。

以上